



Shikoku  
Cancer Center News  
No.69

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

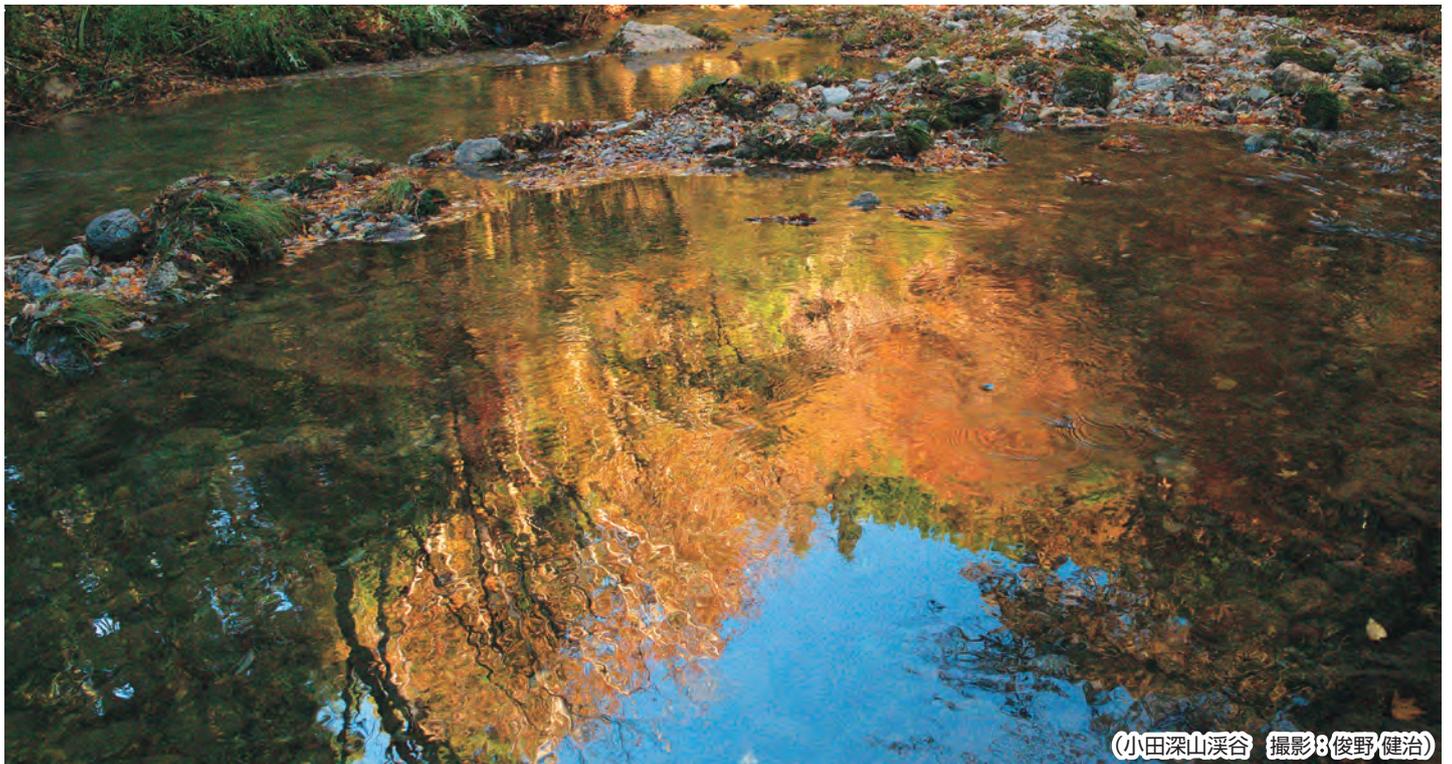
# 四国がんセンター ニュース



日本医療機能評価機構  
認定第JC1324-3号

2019  
10  
OCTOBER

**基本理念** 患者さんの立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。



(小田深山溪谷 撮影 8 俊野 健治)

## がん医療における病院の実力とは？『病院力』の充実を目指して

われわれが行うがん医療は、診断から始まり、手術や薬物や放射線を用いた治療法を決定・実施し、その効果を見ながら経過を追っていくというのが通常のやり方です。医療スタッフは新しい治療法を開発し、患者さんに実施できるように努力しています。しかし、昨今の「多様性の時代」といわれる世の流れを受け、患者さんが医療に求める要望やニーズは日々多様化しています。患者さんが診断を受けて直面する社会的な問題点、例えば医療費はどう工面しよう、病気のことを家族や親戚にどう伝えようか、治療が不安だ、仕事は何とか続けていきたいがどうしようか、子供への病気の説明はどうしたらいいのだろうか、がんの遺伝はないだろうか、妊娠はできないのだろうか、病院が家から遠いのでいずれ近くの病院

に移ったほうが楽だけど、など思いはさまざまだと思います。

以前の医療機関ならば、そういった問題には積極的に関わりませんでした。治療成績をいかに向上させるかを追求する『治療成績至上主義』が医療のメインの考えだったためです。しかし1990年代の末頃から治療を受ける患者さんをさまざまな面から社会がサポートすべきであるという考え方が医療現場に登場してきました。治療中の生活も含めた患者さんの生き方を保つこと、『サバイバーシップ』の保持が、患者さんにとって、よりよい医療に繋がるという概念です。このがんサバイバーシップを保つために病院として何ができるか、ということ、当院は今追求しています。われわれは患者さんの多様性に対応しようと、他院との

医療連携ネットワーク構築、緩和ケアの充実、チャイルドケア、就労支援、遺伝子相談の受け入れ体制の整備、愛媛県がん診療連携協議会との合同での若年がん患者（AYA世代がん患者）のがん診療体制や、患者さんの妊娠希望を叶えられる治療法の確立等を充実させてきています。これらは、診療レベルとは別次元の総合的な病院の力、つまり『病院力』とも呼ぶべきものです。この『病院力』の点からも患者さん・ご家族のご期待に応えてまいりたいと思います。



(臨床研究推進部長  
青儀 健二郎)



# がん治療

# 最前線

## ISO 15189認定取得がもたらす臨床検査科の付加価値

当院臨床検査科は国際標準規格のISO 15189の認定を本年6月末に取得いたしました。

一般の方はISOと言われてもピンと来ないのではないのでしょうか？ 一体ISOとは何なのか、まず簡単にご説明をしたいと思います。

ISO (International Organization for Standardization) は国際標準化機構というジュネーブに本部を置く非政府団体です。電気・電子分野を除くあらゆる分野の標準化を推進する国際機関です。この機関に加盟している162カ国で運営されています。目的は国際貿易の円滑化・促進のための国際規格の策定をすることです。臨床検査の分野もこれに漏れることなく国際標準規格が設けられており、第3者機関（日本では日本適合性認定協会“通称JAB”）が審査し、認定をすることで、臨床検査科は国際治験やがんゲノムといった分野での役割を十分に果たすことができるというお墨付きを与えてくれます。

今回、当院臨床検査科は検体検査部門・病理部門・

生理部門の認定を取得しました。ISO 15189は臨床検査科の品質と能力の向上をもたらします。とりわけ検査結果に及ぼす影響をすべての段階（検査前・検査中・検査後）で管理しており、試薬や消耗品のロット管理・消費期限、機器の精度管理、機器のメンテナンスや自主点検にいたるまですべての管理が行き届くようになりました。また、検査を行う環境、そして、結果を報告するまでに関わる問題点をPDCAサイクル（Plan計画⇒Do実行⇒Check評価⇒Act改善）を回す事によって、常に良い方向に向かわせます。今までもさまざまな改善を行ってきましたが、第3者に見えるように記録を取っていくことで、より明確に順序よく改善されていくことが実感できます。がん治療にとっても標準化された方法で検査を行うことで、問題なく結果報告まで行えることは患者さんにとっての重要なメリットであり、治験プログラムにおい

ても有用な結果となるに違いありません。今後、四国がんセンターはがんゲノム医療拠点病院として活動していくことになるので、より一層重要なファクターとなると思われます。この付加価値を維持することは大変ですが、我々臨床検査技師のみならず、四国がんセンターの使命であると感じておりますので、より一層の努力をしていきたいと思っております。

（臨床検査技師長

黒田 和彦）

International Organization for Standardization  
(国際標準化機構)

### ISO 15189

臨床検査室の品質と能力に関する以下の要求事項をすべて満たす事

- ・ 組織及び管理主体責務
- ・ 品質マネジメントシステム
- ・ 文書管理
- ・ サービスの合意事項
- ・ 委託検査室による検査
- ・ 外部からのサービス及び供給品
- ・ アドバイスサービス
- ・ 苦情処理
- ・ 不適合の識別及び管理
- ・ 是正処置
- ・ 予防処置
- ・ 継続的改善
- ・ 記録の管理
- ・ 評価及び監査
- ・ マネジメントレビュー
- ・ 要員
- ・ 施設及び環境条件
- ・ 検査室の機材、試薬及び消耗品
- ・ 検査前プロセス
- ・ 検査プロセス
- ・ 検査結果の品質の保証
- ・ 検査後のプロセス
- ・ 結果の報告
- ・ 結果の報告（リリース）
- ・ 検査室情報マネジメント



## がんゲノム医療外来



がんは、世の中に数多く存在する発がん物質や紫外線、ウイルスなどにさらされる遺伝子が傷つくことによって発症します。

すでに一部のがんでは数種類の遺伝子を調べ、その結果を基に治療を決めたり、効果を予測したりすることが行われています。また科学技術の進歩に伴い、より多くの遺伝子の役割がわかり、遺伝子を調べる方法も安価かつ高速に行えるようになってきました。

そうした中、2018年3月に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画において、充実すべきがん医療として「がんゲノム医療」が掲げられ、がん細胞の100以上の遺伝子変異を同時に調べる「がんゲノムパネル検査」の結果を基に治療法を選択し、新たな治療薬の開発につなげるための医療が始まりました。

これまでがんゲノムパネル検査は自費診療でしたが、標準治療がない、標準治療が終了となった（終了見込みを含む）患者さんを対象に、検査法が本年6月に保険承認されました。当院でも準備を進め、2019年9月からがんゲノム医療外来にて検査を開始しております。

現状では検査結果から何らかの治療につながる方は限られますが、がんゲノム医療の結果が研究開発に応用されることで、がん治療が大きく変わる可能性があります。

なお、がんゲノム医療は、体制が調った、「がんゲノム医療中核拠点病院」、「がんゲノム医療拠点病院」、「がんゲノム医療連携病院」のいずれかに指定された病院でしか受けることができません。

検査を希望される方は、担当の先生とよくご相談の上、がんゲノム医療外来に紹介してもらってください。

（臨床研究センター長 上月 稔幸）



## エキスパートナース・メディカルスタッフ

EXPERT NURSE・MEDICAL STAFF

Part.45

### 認定遺伝カウンセラー®



認定遺伝カウンセラー®は、2005年に創設された新たな医療専門職です（2019年9月時点で全国243名）。当院では、病棟での家系図作成や外来での情報提供、遺伝カウンセリングを通じて、遺伝医療を必要とする患者さんやご家族に適切な遺伝情報および社会の支援体勢等を含む、さまざまな情報提供と心理的・社会的なサポートをしています。

遺伝子の検査は少量の採血で行う簡便なものです。しかし、得られる結果（生まれもった遺伝情報）は、ご本人だけでなく健康な血縁者も共有することがあり、生まれてから亡くなるまで一生変わることのない“究極の個人情報”です。

遺伝子の検査により、特定のがんのなりやすさが予測でき

る一方、いつ・どの部位のがんになるかが正確にはわからないという曖昧さもあります。ある方が遺伝性腫瘍と診断された場合、家系全体の世代を超えたサポートが必要となります。

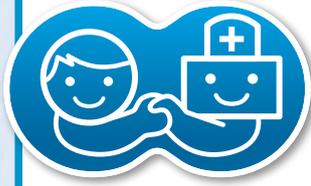
昨年、薬剤の保険適用を目的に、遺伝性腫瘍に関わる情報を調べるコンパニオン診断が始まり、検査件数が急増しました。またがんゲノム医療を始め、遺伝子の検査はますます身近になっています。当院は、遺伝性腫瘍に対応する遺伝性がん診療科（遺伝カウンセリングと遺伝学的検査を行う）、サーベイランス外来（ガイドラインに沿って遺伝性腫瘍に特化した検診を行う）を有する全国でも類を見ない施設です。

遺伝カウンセラー®は、さまざまな診療科で横断的に活動しています。遺伝のことが気になる患者さんがいらっしゃいましたら、どうか気軽にお声掛けください。

（遺伝カウンセラー® 松山 裕美・岡村 弥妃）



遺伝カウンセラー



# お世話になって医ます

岡部内科消化器科クリニック

四国がんセンターは、初診患者さん全てが地域の医療施設からのご紹介です。ここでは、かかりつけ医の皆さまからうかがった、さまざまなご意見をご紹介します。

## 岡部内科消化器科クリニック



松山市東垣生町で消化器疾患をご専門に診療されている岡部内科消化器科クリニックを訪問させていただきました。院長の岡部壮一先生は、社会人経験後に愛媛大学医学部に入学され、卒業後に愛媛大学医学部附属病院、済生会西条病院、愛媛県立中央病院で消化器内科の臨床に従事されました。そして、2006年に松山市の南西の端、重信川の河口に近い、空港から5分の東垣生町で開業されました。患者さんの紹介以外にも、在宅医療で大変お世話になっています。また、大学時代から私の頼れる同期の先生でもあります。

### クリニックの特徴を教えてくださいませんか？

消化器内科外来で上部・下部内視鏡検査、腹部エコー検査などの外来診療と水曜日・金曜日・土曜日の午後に訪問診療を行っています。開業当初から始めた訪問診療ですが、現在、患者さんは50～60名で、施設の方が4割強、最高齢は105歳の女性です。年間で30～40名のがんの看取りもしています。範囲は、東垣生・西垣生・余戸・南吉田・空港通り・松前をカバーしています。

在宅支援室を設けており、専任看護師1名と事務職1名で患者さんやご家族との連絡、基幹病院の地域連携室・ケアマネジャー・薬剤師・訪問看護ステーション・ヘルパーステーションなどとの連携業務、訪問スケジュールの調整を行っています。また、松山市で5施設しかない在宅緩和ケア充実診療所に指定されており、その分責任を感じ、研鑽を積んでいるつもりです。

### ご趣味は？

よくゴルフをやっています。

### 四国がんセンターへのご要望はありますか？

がん患者さんの紹介でいつもお世話になっております。ま

た、緩和ケア病棟への入院をお願いすることもあり、在宅療養後方支援病院の体制をとっていただいていることも含めて、患者さんは安心して在宅療養ができています。地域医療連携室のスタッフの皆さんの対応もきめ細かく満足しています。



前列左から梶原、岡部院長

きれいな絵に囲まれた、おしゃれなカフェのような雰囲気  
のクリニックで、優しい笑顔でお話いただきました。患者さんや家族の不安をとるために、連絡がとれる安心感や診療に来てもらえる安心感を提供したいとおっしゃっていたのが印象的でした。今後とも四国がんセンターとの連携をよろしくお願いします。

(消化器内科医長 梶原 猛史)

### 岡部内科消化器科クリニック

- 住所：〒791-8043 愛媛県松山市東垣生町136
- 電話：089-972-2221
- FAX：089-972-2244
- 診療科目：内科・消化器内科
- 休診日：水曜午後、金曜午後、土曜午後、日曜・祝祭日



	月	火	水	木	金	土
午前：9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
午後：14:00～18:00	○	○	往診	○	往診	往診

# ☑ がんセンターだより

## がんセンターフォーラムを実施して

毎年恒例の「四国がんセンターフォーラム」。今年も松山市駅前の伊予鉄高島屋内で開催しました。

関係者の事前の打ち合わせで、著名人の罹患で話題の各種がん（免疫療法、舌がん、血液がん）の講演とトークショーの構成により行うこととなりました。

そのうち、メインのトークショーについては、今年1月に当院が発刊した冊子「がん専門病院からのメッセージ」に関する外部の方からの質問と回答といった形式で行い、当院医師のほか、病院ボランティアの方、愛媛新聞社の方にもご参加いただきました。

事前のトークショーの質問内容の打ち合わせや、台本づく



りに苦労したことが、昨日のこのように思い出されます。

また、当日のトークショー開始時、冊子の案内動画のセリフ音声流れないというハプニングが起こったのですが、司会者の方が、あたかも最初からそうであったかのように、そのセリフの全てをアドリブでしゃべっていただいたのには感動しました！

終了時、いろいろな方から「今年のがんフォーラムは大成功だったね」「200人以上も来場したのは初めてだよ」といった声をかけていただきました。

来年もさらに素晴らしいフォーラムとなるよう、四国がんセンター一丸となって取り組んで参ります。

最後に、この場をお借りしまして、当フォーラム開催に携わっていただきました全ての皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。（経営企画室長 竹内 亘弘）



## 地域医療連携交流会を開催しました

2019年7月6日（土）ホテルマイステイズ松山にて、第6回地域医療連携交流会を開催しました。

常日頃、当院に患者さんをご紹介いただいている医療機関の皆様と当院職員、総勢82名が一堂に会し、当院医師の講演も交えて約2時間、会食形式で顔の見える交流が行われました。

私のテーブルにはある医療機関の看護師さんがいらっしゃったのですが、「どのような業務をされているのですか？」とご質問したところ「地域連携から受付から全部よ、全部」と答えられたことがとても印象的でした。

その他の方々にも連携業務の話聞くことができ、普段あまり地域連携業務に関わっていない私にとってとても新鮮な

会になりました。もちろん料理もとてもおいしくいただきました。

当院との医療連携につきまして、引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

当院では地域医療連携交流会を毎年開催しています。

忙しい中参加してくださる開業医さんをはじめとする医療機関の皆様感謝するとともに、医療連携を拡大していくことで患者さんの治療に役立てていきたいと考えています。

（経営企画室長 竹内 亘弘）



## 治験 CHIKEN CORNER 治験コーナー

ちけん

「当院では治験を実施しています」

こちらは、治験・臨床試験管理室です。このコーナーでは、ただ今、募集の治験等の情報を提供しています。なお、当院HPにて、詳細情報を公開中です。

（治験主任 峯本 譲）

### ● 現在募集の治験等情報

下記の件数は企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験の「現在募集中の治験情報」です。

- |                 |                 |                  |                 |                  |
|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|------------------|
| ● 肺がん …………… 16件 | ● 食道がん …………… 2件 | ● 膀胱がん …………… 1件  | ● 卵巣がん …………… 4件 | ● 子宮体がん …………… 1件 |
| ● 悪性胸膜中皮腫 … 1件  | ● 大腸がん …………… 4件 | ● 肝細胞がん …………… 1件 | ● 固形がん …………… 6件 | ● 子宮頸がん …………… 1件 |
| ● 乳がん …………… 11件 | ● 膵がん …………… 1件  | ● 胆道がん …………… 1件  | ● 悪性リンパ腫 …… 1件  |                  |
| ● 胃がん …………… 9件  | ● 前立腺がん ……… 3件  | ● 尿路上皮がん …… 4件   | ● 子宮癌肉腫 ……… 1件  |                  |

（令和元年8月末現在）

**E V E N T**  
**REPORT**

**夏休みキッズ探検隊**



がん患者さんの家族支援の一環として、8月1日にがんの親をもつ子どもを対象とした「夏休みキッズ探検隊」を開催しました。このイベントはがん患者さんの子ども（小学生）に対するがん教育、ストレスマネジメント、病院見学などを組み込んだプログラムになっています。2012年に開始し、今回で8回目の開催になります。

晴天の中、元気いっぱいの愛媛県内の小学生15名が参加しました。

さあ、1日白衣を着てキッズ探検隊のはじまりです！まずは緊張をほぐすためのアクティビティ、キワニスドールを作成（ペンで顔や洋服を塗ります）。子どもたちとスタッフで自己紹介後は、じゃんけんゲームです。なが〜列車を作る



うちに緊張がほぐれました。がん教育の1時間目は「がんという病気」、2時間目は「心と体のつながり」について学び、グループに分かれてストロングボックスを作りました。自分や家族を思い描きながら作成している様子は実に微笑ましい光景でした。お昼ご飯のメニューは、豚の生姜焼き・スパサラダ・中華風スープ・ごはん・フルーツ。病院食を「おいしい〜!!」とあっという間に食べてその後は遊びに夢中。子どもたちから元気をもらいました。午後は、いよいよ病院の中の探検です。薬剤部・リハビリ室・病理検査室・リニアック室・緩和ケア病棟など3グループに分かれて回りました。看護体験では、興味津々に血圧測定や点滴の滴下体験をすることができました。子どもたちから「病院内での探検をしたり、体験をして楽しかった」「がんについていろいろと知れた」などさまざまな感想が聞けました。そして今年も夏休みキッズ探検隊OGの高校生ボランティアさんが2名参加し応援してくれました。がんの親をもつ子ども同士のつながりや成長を感じることができました。12月26日には、親ががん患者の小・中学生を対象としたクリスマスキッズサロンも開催します。お友達と楽しい時間を過ごしましょう！

(がん相談支援センター  
副看護師長 橋本 裕子)



**医者のつづやま  
リレーエッセイ**



**●第九回 知恵とへびと餃子**

AIが囲碁と将棋で人間を完全にたたきのめして、人々に衝撃と恐怖を与えてから三年経つ。AIはArtificial Intelligenceの略で、Artificialには“人が作った”、転じて“模造”や“偽”、“天然ではない”という意味がある。

AIに病理診断をさせようとする人は多い。ヒトっぽくない病理医が多いからだ。私もすぐに沢山の名前を挙げられる。しかし、現在の人造AI病理医では天然の病理医を超えられないことが明らかになってきた。何回かに一回胃炎を癌と言うし、融通が利かないし、診断根拠を説明出来ない。あれ？やっぱり似てる？…いやいや『所詮、模造の知能だ』

先日AIによる病理診断の研究会に参加するために浜松に行ってきた。浜松と言えば、うなぎ。研究会で、自分の職の安全が保証されたので、安心して老舗のうなぎ屋に行って、本場のうなぎを食べることが出来た。『ああ、今まで食べたのはうなぎじゃなくてへびだったんだ。これが本物かあ』

同日廃版になったバイクを見に、ヤマハの博物館に行って

きた。浜松と言えば、バイク。博物館にはヤマハが初めて発売したバイク・YA-1から最新のNIKENまでが誇らしく展示されていた。しかし、私が大型の免許を取るまで乗っていたドラスタの姿がない。『パクリ疑惑と日本サイズを気にしなければ、本家に負けるどころなんてないのに！』どうやらヤマハにとって、ドラスタはうなぎじゃなくてへびだったのだろう。仕方がなく、模型を買って帰った…

何が本物かは時代で変わる。そもそも浜松は養殖うなぎの本場だ。本物のうなぎは江戸時代初期の江戸の沼でによるしていた気持ち悪い痩せたさかなだ。天然は不味い。いつかへびが養殖されて、『頭が良くなるアップル味！』とありがたがられる時代や、ヤマハのアメリカンバイクが世に満ちる時代が来るかもしれない。そのいつかより早く、AIが天然の病理医を超えることは確実だが…でも、まあ、今はまだ天然が本物だ。

浜松と言えば、餃子。駅前繁华街では本場の味は味わえないらしい…ま、餃子のことはどうでもいい。

(がん予防・疫学研究部長  
寺本 典弘)



ヤマハのアメリカンバイク。大きな声では言わないが、アメリカの有名なバイクに似すぎているらしい。

# がんセンター ハイ!一句 俳句ポスト



作品が選ばれましたら、四国がんセンターニュースと選者発行の「俳句ライフマガジン『100年俳句計画』」(月刊誌)へ掲載します。

選者：三瀬あき(俳句ライフマガジン「100年俳句計画」発行人)



## 三才児ころころ踊り盆太鼓

(I.Fさん 91歳・女性)

盆踊りの輪の中、その中の三才児ぐらいの子に注目したI.Fさん。「ころころ」というオノマトペがいいですね。三才児のかわいさ、小ささ、動きすべてをこの4音で言い表しています。

## 雨あがり窓からみあげ赤とんぼ

(H.Hさん 37歳・女性)

夏から秋へ季節がかわる頃、まだ体感としては夏の暑さがあるのに、急に赤とんぼが増えたと感じることがあります。H.Hさんは、病院の窓から眺めているのでしょうか。病院でいるうちに季節が移り変わっていったと読むのは深読みでしょうか。

## みずいろのポップンシャワーとハッシュタグ

(#今日のたけしさん 63歳・男性)

今時のことばが詰め込まれてポップな一句。アイスクリームの「ポップンシャワー」でしょうか。「ハッシュタグ=#」は、SNSで発信するときのキーワード。#今日のたけし、で検索すれば、たけしさんの生活が見えてくる?

## 音によって感じる温度が違います

**入選** なくせみのこえきくほどにあつくなる  
(ちひろくん 11歳・男子)  
ふうりんがりりんひびくすずしげだ  
(ゆきえちゃん 8歳・女子)

ちひろくんは「せみ」。ただでさえ暑いのに、せみの声でさらに暑さが増してきます。かたや、ゆきえちゃんは「ふうりん」。どうでしょう、やっぱり涼しく感じられます。読者の脳内にも音と温度が再現される楽しさ。

## 私たち前向きです

**入選** ステージ4レベル4ならオリンピック  
(Rさん 65歳・女性)  
チャレンジにこたえてほしいがん細ぼう  
(Mさん 38歳・女性)

Rさん。どちらの「4」も最高難度。大喜利なら座布団1枚ってところでしょう。笑いにかえる力が、前進する力になりますよう。Mさん、新しい治療、新しい薬など、苦しいけれどチャレンジをしているのでしょう。こたえてほしいとは心の底からの願い。

## 普段がしあわせ

**入選** 健康で生きることこそ働ける喜び  
(Kさん 67歳・男性)  
10回目目覚めた朝日の素晴らしさ  
(N.Tさん 63歳・女性)

Kさん、健康で、働けること。こんな普通のこと喜びだったなんて。N.Tさん、10回目、というのは手術の回数?入院して10日目?目覚めた朝日がまぶしいという日常がこんなにも素晴らしいことだったなんて。



## 皆さんの「一句」募集中

患者さんのご要望で生まれた四国がんセンターの俳句ポスト、「ハイ!一句ポスト」。大変ご好評をいただいております。設置場所は、各階エレベーター前、図書コーナー、総合案内、支援センター「向日葵」で、作品は随時募集中です。患者さん、ご家族、面会の方、職員、どなたでも気軽に投稿ください。皆さんの「自慢の一句」「楽しい一句」をお待ちしております。

# 新任医師紹介 New Physician

第2弾



麻酔科  
医長

原田 佳実

平成31年4月1日より着任致しました。川崎医科大学出身です。前任地の愛媛県立中央病院では、幅広い年齢層の患者さんの予定手術や緊急手術の麻酔を経験しました。患者さんに安心して手術を受けていただけるような麻酔管理をしていきたいと思っています。  
趣味：読書 音楽鑑賞など



頭頸科・甲状腺腫瘍科  
医師

秋定 直樹

平成31年4月より赴任しました。患者さまのお力になれるよう頑張ります。今後とも何卒よろしく願います。



頭頸科・甲状腺腫瘍科  
医師

林 祐志

## 愛 GIVER project 募金活用事業 フットサルリボン in えひめ

参加者募集

入場無料  
定員80名

日時

10月19日(土)

[セミナー]10:00~12:00(9:30開場)

会場

愛媛新聞社 1階ホール  
松山市大手町1-12-1



愛媛新聞社は、2018年秋から、がんの正しい知識を身に付けてもらい、患者らが笑顔で暮らせる社会を目指す「愛 GIVER project」を進めています。募金活動で集まった寄付金と協賛金の一部を活用し、現役のプロフットサル選手で、がんサバイバーでもある久光重貴氏を迎え、記念講演を開催します。

講演①「実はけっこう知らない、がんの話」 講師：四国がんセンター統括診療部長 橋根勝義氏

講演②「LOVE the life your live ~困難の中でフットボールが生きる希望に~」

生きることもフットサルも諦めずに、前に進む気持ちを伝えます!

ひさみつ しげたか  
久光 重貴 選手  
(湘南ベルマーレフットサルクラブ)

神奈川県出身の38歳。フットサル選手として日本代表にも選出。6年前に肺腺がんが見つかったが、抗がん剤治療を受けながら、現役選手として復帰を果たした。プレーを続けながら、小児がんなどの患者・家族の支援活動にも力を注いでいる。

当院はこの事業の趣旨に賛同し、メインパートナーとして協力しています。



今治市朝倉 撮影：高市 瑞穂

### 外来診療一覧表

- 新患受付時間 7:30~12:00
- 診療時間 8:30~17:15
- 休診日：土・日・祝日及び年末年始

担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください

### 四国がんセンター概要

〒791-0280  
愛媛県松山市南梅本町甲160  
TEL: 089-999-1111  
FAX: 089-999-1100  
<https://shikoku-cc.hosp.go.jp>

### 環境

“いで湯と城と文学の街”ここ愛媛の松山はノスタルジックあふれる城下町。当院はこの城下町の南東に位置し、東に霊峰石鎚、北に道後温泉、西に伊予灘を望み、自然に恵まれた最高の療養環境に立地しています。交通機関も伊予鉄巡回バスの運行など便を増やすことで来院も便利になりました。今後とも患者さんの視点に立った細かな配慮を心がけ、西日本を代表する「がん専門病院」として精進いたします。

### 診療内容

- |           |              |
|-----------|--------------|
| 呼吸器内科     | 乳腺外科         |
| 呼吸器外科     | 婦人科          |
| 消化器内科     | 頭頸科・甲状腺腫瘍科   |
| 消化器外科     | 骨軟部腫瘍・整形外科   |
| 精神腫瘍科     | 形成・再建・皮膚腫瘍外科 |
| 緩和ケア内科    | リハビリテーション科   |
| ストーマ外来    | リンパ浮腫        |
| 禁煙外来      | 放射線診断科       |
| 泌尿器科      | 放射線治療科       |
| 血液腫瘍内科    | 病理診断科        |
| 感染症・腫瘍内科  | 歯科           |
| セカンドオピニオン | 麻酔科・疼痛外来     |
| 遺伝性がん診療科  | がんドック        |
| がん看護外来    | 原発不明がん診療科    |

病床数 368床

### 当院は予約制を行っており、予約患者さんを優先しております

診療科		月	火	水	木	金	
消化器	内科	食道・胃・大腸	梶原(化)	仁科(化)	仁科(化)	梶原(化)	中舎(化)
		肝・胆・膵	西出(内)	堀(内)	堀(内)	日野(化)	長谷部
	外科	食道・胃	灘野	浅木	寺尾		灘野
		大腸		羽藤		野崎/香川	
呼吸器	内科	肝・胆・膵	小林	落合		予小島	予★落合/☆小島
		肝・胆・膵		大田		御厨	
	内科新患	○原田	野上	○野上	上月	原田	
	外科	○上月					
	予禁煙外来	山下(素)	原田	上月	山下(素)	野上	
緩和ケア・精神腫瘍科		三浦(緩和)	谷水(緩和)	成本(緩和)	落合(緩和・精神)	三好(緩和)	
泌尿器科		○橋根		橋根		○松村	
		○富田		○松村		○富田	
		○新井		○井内		○井内	
血液腫瘍内科			吉田		吉田		
感染症・腫瘍内科		○濱田			○濱田		
婦人科		竹原/坂井	予婦人科医師	竹原	予婦人科医師	大亀/藤本	
		友野		大亀		坂井	
		横山		藤本		横山/友野	
		青儀	大住		青儀	大住	
乳腺外科		高嶋	高橋	高橋	高嶋	三好	
			○三好				
形成外科		○山下(昌)	○山下(昌)	○河村			
皮膚科		○藤山	△藤山	藤山		○藤山	
		門田	○担当医	門田	○担当医	岸野	
頭頸科・甲状腺腫瘍科 (耳鼻咽喉科)		秋定		岸野		秋定	
		林		林			
		○杉原		○杉原	△杉原	○杉原	
放射線	診断科	菅原	桐山	清野	菅原	細川	
		片岡	片岡	神崎	上津	上津	
	治療科	神崎	神崎	上津	神崎	★片岡/★神崎	
		上津	上津	片岡	片岡	☆神崎/☆片岡	
予ストーマ外来		小林	落合	橋根	小島	△小島/☆落合	
予リンパ浮腫外来			○河村		○山下(昌)	△清藤	
リンパ浮腫ケア外来			リンパ浮腫ケア(自費)			リンパ浮腫ケア(自費)	
予麻酔/疼痛外来			武智/正岡(隔週)			予首藤	
原発不明がん診療科			△青儀				
予セカンドオピニオン		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
予がんゲノム医療外来				△担当医			
予遺伝性がん診療科		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
がん看護外来		がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	がん看護外来	
がんドック		酒井	徳永	酒井	徳永	酒井	
		日野	治療内視鏡	日野	坂口	寺尾	
		堀	治療内視鏡	西出	西出	堀	
内視鏡生理検査		長谷部	治療内視鏡	長谷部	長谷部	西出	

予…予約のみ ○…午前のみ △…午後のみ ★…奇数週 ☆…偶数週 (化)…化学療法担当 (内)…内視鏡治療担当  
※診療担当は変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

### TRAFIC ACCESS 交通のご案内



### 車でのお越しの場合

- 車
- 松山空港から車で 約45分
  - JR松山駅から車で 約30分
  - 松山市駅から車で 約25分
- 松山自動車道
- 松山インターから車で 約20分
  - 川内インターから車で 約20分

### 電車・バスでお越しの場合

